

高山神社跡

今は公園になっています。かつてこの地には、大鳥居の向こうの木立の中に立派な神殿がありました。昭和34(1959)年に四宝神社と一緒にまとめられ坪井地区にある観音神社(●参照)となりました。観音神社の神殿は、ここ高山神社のものが移されたものです。それで今も地域の人々の祈りの場として使われています。



さい 霽の神

水災橋(●参照)を渡った所の青木家の庭に祠があります。それをクロガネモチの木が大きくなりご神体をまきこんでしまいました。今はこの木にしめ縄がかけられています。

古代山陽道のそばにあり多くの人が参拝したそうです。また、旅人たちが旅の安全を祈った所でもあります。



正楽寺

およそ1200年前に創られたお寺です。本堂入り口の上に「南名山」と彫った古木の額があります。これは昭和3(1928)年の大変な被害があった倉重山津波の時流れ着いた木を水害を忘れないようにと「額」として保存したものです。江戸時代終わり頃インドの天文暦に詳しい浄名和尚は、いろいろな大名に招かれ講義をしたそうです。このお寺は、長い間には住職のいない無住寺となった時もありましたが、村人は、寺の修理を怠らず大切に守ってきました。地域みんなの寺として守られて、続いてきたお寺です。



一つ休み 観音

この一つ休み観音はもう少し上の方にありました。天文(1532~1538)の山津波でここまで流れ、この地に安置されたのです。だれがいつ、何のために安置したのかわかりませんが、人々は山仕事の行き帰りにこの観音様の所で一休みをしました。そして、「一つ休み観音」と呼ばれるようになりました。一日の仕事を終えた夕暮れ時、人々はこの観音様の前で汗をふきながら山の風に疲れをいやし今日一日の無事を感謝したことでしょう。



野寺跡

今は石仏二つがあるだけのこの地には、その昔お寺があったそうです。風が涼しくぬける石仏の下には、断食をして修業を積みこでなくなったお坊さんが眠っておられるとのこと。お寺はなくなったけれど、この石仏はお守りさんといわれ盆と正月にはお参りされる方がいるそうです。



坪井の棚田

人の手で一つ一つ石を積みあげてつくった田んぼは、宅地化が進み、だんだん消えていっています。

ここは、遠く瀬戸内の島々や海に開けた市街地が広く見渡せる地区内有数のビュースポットでもあります。



六地藏

六人のお地藏さんが並んでいます。台石には大正四年六月と刻まれています。一人一人の顔を見てください。みんな顔が違ってきます。仏の教えに人は六つの道(地獄 餓鬼 畜生 修羅 人 天)に入り、生まれかわり死にかわるというのがあります。六つの道それぞれで人間の苦しみや救っていくという六地藏さんが火葬場や墓地に置かれました。ここは、その昔火葬場でした。



竜神釜

地獄谷とか竜神谷とか言われる谷に滝つぼが三つあります。上流から順に一の釜、二の釜、三の釜と名前がついています。

日照りが続き、水不足となったら村の人々はこの二の釜を洗い、真ん中にあるご神体の青石をゴルフ場の上にある竜王社(貴船神社)にお迎えし雨乞いをしました。すると雨になったそうです。水の少ない観音地区の人々の祈りがこもっている二の釜です。



竜神釜の石仏

